

Human papillomavirus prevalence in the anus and urine among HIV-infected Japanese men who have sex with men

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00049650

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医薬保博甲第116号 氏名 八重樫 洋

論文審査担当者 主査 市村 宏

副査 藤原 浩

藤永 由佳子

学位請求論文

題 名 Human papillomavirus prevalence in the anus and urine among HIV-infected Japanese men who have sex with men
HIV 感染日本人男性同性愛者における肛門と尿におけるヒトパピローマウイルス感染率

掲載雑誌名 Journal of Infection and Chemotherapy
平成29年掲載予定

近年、頭頸部癌、陰茎癌、膀胱癌、肛門癌などの子宮頸癌以外の癌種の発生とヒトパピローマウイルス (HPV) との関連を指摘する報告が増加している。特に、世界的にヒト免疫不全ウイルス (HIV) 陽性の男性間性交渉者 (men who have sex with men; MSM) における肛門癌と HPV 感染との関連が注目されている。日本人 MSM における肛門および尿路 HPV 感染は未だ把握されておらず、今回の研究では、日本人 MSM の肛門および尿路 HPV 感染状況を明らかにすることを目的とした。HIV 陽性 MSM 患者 148 例から肛門および尿検体を採取し、これらの沈査を液状細胞診用保存液に保存した。各検体より DNA 抽出を行い、HPV 陽性例に関して HPV 型判定を行った。また、肛門検体についてパパニコロウ染色を行い、ベセスダ分類により肛門扁平上皮細胞異型を評価した。病歴とアンケート調査結果を用いて肛門扁平上皮細胞異型の危険因子の検討を行った。

得られた結果は以下のように要約される。

- 1) HPV 陽性率は、肛門検体 80.9%、尿検体 30.9%であった。高リスク型 HPV 陽性率は、肛門検体 57.3%、尿検体 20.9%であった。HPV 型別頻度は、肛門検体で HPV6 型、16 型、58 型、52 型、また尿検体で HPV6 型、52 型、51 型、33 型、58 型の順であった。
- 2) 肛門および尿検体の両方より HPV が検出されたのは全症例中 23.6%であり、型の部分一致がみられたのは全症例中 6.7%であった。
- 3) パパニコロウ染色が可能であった肛門検体 122 例中、細胞異型はそのうち 81.1%で認められ、内訳は ASCUS (46.7%)、LSIL (28.7%)、HSIL (4.1%)、ASC-H (1.6%) の順であった。
- 4) 肛門扁平上皮細胞異型の危険因子について検討した結果、CD4 陽性 T リンパ球数 nadir 低値および肛門への高リスク型 HPV 感染が独立した危険因子であった。

尿 HPV 検出率は、以前に行った STD クリニックを受診した尿道炎 MSW 患者のそれよりも高く、HIV 感染の影響が示唆されるとともに、膀胱癌などの尿路悪性腫瘍への進展も懸念され、今後、疫学研究が必要と考えられた。本検討から、HIV 感染による何らかの免疫機序の影響により、高リスク型 HPV 感染が持続することで肛門癌へ進展することが示唆された。

本研究は、日本人 MSM における肛門および尿路 HPV 感染状況を初めて提供した労作と評価され、学位に値すると判断された。